

## 茨城県議会議員

### とこい 洋 治 県政報告NEWS

# 新世紀の県政がスタート

地域に根ざし、人にやさしい県政の実現をめざします!



▲岩間町スポーツ少年団剣道部へ日本生命財団から打込台、大太鼓が寄贈され、土用稽古納会で披露されました。役員の方々と一緒に常井県議（後列右から2番目）も頑張った成果です。（友部町、岩瀬町へも寄贈されました。）（4ページ）常井県議は新世紀を担う青少年の「人づくり」に熱心に取り組んでいます。（12年8月）

## 文教治安委員会・予算特別委員会 ふれあいと活力のある社会づくり調査特別委員会 **で活躍**

常井洋治県議は、皆様から13,630票という大きなご支援をいただき、トップ当選を果たして以来、着実にコツコツと毎日の議会活動に励んでおります。そして県議会の委員会では、これまで毎回質疑を行い、常に地元西茨城郡と県政全般について論戦を展開し、県議会の論客ぶりを印象づける活躍をしております。

この度、委員会の所属替えにより、3つの委員会に属することになりました。21世紀の人づくりを行う教育部門と県民の安心な生活を担保する警察部門を所管する文教治安委員会をはじめ、2つの特別委員会で議会活動を続けてまいります。今後も全力投球を続ける常井県議に皆様の応援をお願いします。



# 一緒に創ろう！ 平成13年第1回定例県議会 を終えて ふるさと西茨城郡 友部町 岩間町 岩瀬町の新时代

平成13年第1回茨城県議会定例会は、2月27日から3月23日までの25日間開かれ、平成13年度予算、12年度補正予算、11年度決算の認定及び条例など104議案を可決して閉会しました。常井洋治県議は、保健福祉委員会などの質疑を通じて、熱心に審議を行いました。

## 平成13年度一般会計予算を可決

**1兆855億7,200万円**  
(12年度当初比0.9%の微増)

### 予算の特徴

#### 〈伸率の要因〉

予算の規模は、対前年度比0.9%の微増で、3年ぶりの増となった。借入金返済のための公債費（8.4%増）、介護保険や老人医療給付負担金や児童手当負担金等の扶助費（8.4%増）の大幅増が主な要因。

#### 〈給与カット半年間継続〉

県職員給与・期末手当は、12年度（1年間）に引き続き、9月までの半年分をカットすることにより51億円の削減。予算計上額は、0.8%の増。

#### 〈財政硬直化〉

人件費、公債費、扶助費などの義務的な経費の歳出全体に占める割合は、58.0%（前年度は56.7%）。

#### 〈県税収入アップ〉

個人県民税は低迷するものの、企業収益の回復に伴う法人2税（法人事業税・法人県民税）の増収により3,249億円、対前年度当初比4.6%増を見込む。法人2税は、ピークの平成3年度の約6割の900億円（対前年度比22.1%増）を計上。

#### 〈公共事業費〉

国補公共事業全体として1,687億円（対前年度比97.7%）を確保。県単公共事業（特別会計含む）は、355億円（対前年度比92.5%）を確保。県単分は、10～12年度の毎年度15%削減してきたが、景気の動向に配慮し、削減率を7.5%とした。投資的経費全体としては、対前年度比▲0.7%の2,580億円を計上。

#### 〈県債発行残高＝県の借金〉

13年度末の見込みで、1兆4,401億円。

#### 〈景気・雇用対策〉

・国補公共、県単公共事業をできるだけ確保した。  
・パワーアップ融資の新規融資枠の拡大（120→160億円）中小企業向け各種IT関連施策の充実、雇用対策基金などの活用により、対策を強化。

#### 〈新世紀いばらき重点化枠で7億円、52本の新規事業〉

①新たな時代を担う人づくり ②少子・高齢社会対策 ③男女共同参画社会の形成 ④情報交流空間の創造 ⑤循環型社会づくりの5テーマを設定し、予算化。

## 常井県議は可決に賛成

長引く景気の低迷のもと、県財政の再建と県民福祉の向上の両立が求められる中で、夢のある21世紀をめざした新世紀初の予算案でした。中小企業対策、福祉や医療、教育や環境の面で苦肉の工夫を凝らしていることを評価し、常井県議は、可決に賛成しました。

## 地元予算トピックス

- \* IT（情報通信技術）講習推進事業—パソコン初心者向け講習会—国補10/10
  - ・友部町、岩間町、岩瀬町の小・中学校を会場として開催。
- \* 子育てママ支援預かり保育事業
  - ・岩瀬町（1幼稚園）（0歳児のいる家庭の上の子（1～5歳児）を預かり、母親の育児負担を軽減。）
- \* 放課後児童健全育成事業補助
  - ・友部町（2か所予定）
- \* 友部駅前通りで街路灯整備
  - ・友部駅前通り商店会（事業費25,600千円予定）
- \* 水質保全対策事業
  - ・岩瀬町『上野沼地区』事業費65,300千円 水質浄化施設
- \* 県営畑地帯総合整備事業
  - ・友部町『小原地区』事業費12,000千円 測量試験費一式
- \* 農業集落排水事業
  - ・友部町『北川根地区』管路施設5.6km 汚水処理施設
  - 『枝折川地区』（柏井）管路施設1.6km
  - ・岩間町『岩間南部地区』（仲村、市野谷、福島）全体実施設計
  - ・岩瀬町『富谷地区』管路施設4.0km



「福祉の町」の玄関口にふさわしい道路にするため、商店会のご協力を得ながら13年度から友部駅前通り歩道の改修が計画されています。

## 総合流通センター（友部町）整備予定期間延長に異議あり！県の「説明責任」を求める 一県、着工時期を『10年代後半』と表明

常井洋治記

県は、今定例会に12年度補正予算案として次のとおり債務負担行為（県が将来にわたり債務を負担すること）の変更を提案しました。

〈債務負担行為変更の議案〉

総合流通センター整備事業用地取得等委託契約（*1）	変更前	総合流通センター整備事業に係る用地取得等について、茨城県開発公社理事長と委託契約を締結する。	自 平成7年度 至 平成12年度	30,311,000千円並びに事務費及び利子の合計額
	変更後	同上	自 平成7年度 至 平成25年度	同上

（\*1）この委託契約により、県開発公社は、資金の調達、用地取得、造成を受託し、分譲できた時点で、県から資金を回収するしくみである。

これは、要するに着工時期を先延ばしして、全体整備期間を13年間延長しようとするものです。私は、次の問題提起をしました。

- ①何故いっきに13年延長するのか理由が明確でない。
- ②段階的に県議会の審議を経て、事業推進見通しに合った延長期間にすべきであった。県議会のチェック機能を阻害するものである。
- ③延長する理由を、イ) 地元の町、住民に ロ) 県議会に ハ) 県開発公社に事前に諮りながら進めるのが本来のあり方である。全て何の協議もなく、いきなり提案するのは納得いかない。
- ④需要調査や販売努力が十分になされず、全て景気の動向に責任を転嫁して延長するのは説得力がない。具体的な整備スケジュールをきちんと示すべきである。
- ⑤常陸那珂港の航路の増加や北関東自動車道の延伸が順調にしている今こそ、物流基地としての流通センターの造成販売を進める好機である。

百里テクノパークなど後発の工業団地により、販売面で益々苦境にたたされることになる恐れがある。



◀ 抜根、草刈りを実施した総合流通センター予定地。火災、ゴミ捨て防止、通学路安全対策を徹底させたい。

私はこの議案については、商工労働部長らに強く異議を述べましたが、他の予算と一括提案であること、県開発公社や友部町との委託契約が切れると、既買収地の管理に影響があることから、じくじたる思いで可決に賛成しました。

可決後に開催された予算特別委員会において、私の所属会派『民主党・清新クラブ』の長谷川修平代表がこの件について質問しました。

その答弁の中で、鈴木商工労働部長は、

- ①北関東の全線開通や常陸那珂港の航路増加などにより、本県や北関東における物流が増加し、流通関連企業の新規立

地が見込まれる平成10年代後半の造成工事着手が期待できると考えている。

- ②個別の企業ニーズを掘り起こしながら、一日も早い着工に向けて努力してまいりたい。
- ③火災やゴミ捨て防止、通学路の安全確保については、地元の県会議員からも要望が出ており、友部町と相談して対応していく。
- ④同センターは、国の承認を得て推進しているものであり、必要なものである（認識に変わりはない）。
- ⑤地元で説明会を開催する必要があるれば、私どもが出向いて説明する約束を町長にしている。

以上のものでありました。

私は、今回の件を通して、『説明責任』の重要性を改めて認識しました。県や自治体は、事業を実施する時には、これまで以上に、行政における決定過程をオープンにすることが必要になってきます。私も皆様に対する説明責任を全うしていくつもりであります。

そして私は、同センターが、地元雇用の創出、税収増、地域の活性化のために、極めて重要な事業であることから、一日も早い着工に向けて、更なる努力をしてまいる所存です。皆様のご助言とご協力をお願いいたします。一緒に頑張りましょう。

## 総合流通センターの概要

### 1. 事業計画

- ・計画面積 109.1ha (分譲面積71.3ha)
- ・総事業費 約400億円
- ・買収済面積 97.9ha (買収率97%)
- ・未買収面積 2.4ha (地権者5名)

### 2. 事業執行状況

- ・執行済額 (平成11年度末現在) 約198億円
- ・維持管理費 (平成13年度予算) 19,500千円
  - ・除草経費 2,500千円
  - ・地下水等調査 2,000千円
- ・事務費 { 開発公社分10,000千円  
友部町へ委託費5,000千円 } 15,000千円

※12年度除草経費 約25,000千円 (H12.3.8のような火災を予防するため予定地周囲の抜根、除草を実施した)

3. 借入金金利 (平成13年度見込み) は、年間約4億円 (金利見込2%)、何と一日あたり100万円超の金利になります。

## 保健福祉委員会 (要約)

### 県立中央病院の救命救急医療体制の確立を求める

常井委員 (友部町随分附の老人の方が、受入れ病院が決まるまで、寒い中で52分間も救急車の中で待たされた事例を挙げ) すぐ近くの中央病院も受入れができず、結果的に水戸の済生会病院に搬送された。救急医療システム全体のタガが緩んでいるのではないか。近所の人たちも、その状況を見ていて、老後に不安を抱いたといっている。現状を検証すべきである。

医療整備課長 救急患者の受入れに万全を尽くすことを中央病院に指示する。同病院は、年間1万件以上の救急患者を受入れている。今後は情報コントロールセンターの活用、医療機関と搬送機関 (消防署) との連携について検討する。

常井委員 中央病院は、県立で唯一の総合病院として、救命救急センターと機能的に遜色がないと説明があったが、心臓病の患者を自治医大まで、1時間もかけて送った例があるが、何故手術等の対応ができないのか。

医療整備課長 心臓血管外科の患者は、自治医大及び水戸済生会病院との病病連けいにより対応をしているが、今後病院のあり方を検討する中で、再検討を行ってまいりたい。

常井委員 県立中央病院に救命救急センターを設置することが私の持論である。救命救急センターが設置されている国立水戸病院が、16年度に茨城町大戸の『桜の郷』に移転開業し、中央病院と近くなるが、バランスの関係上センターの設置をどう考えていくのか。

医療整備課長 移転してから考えたい。

常井委員 移転後では遅い。今から検討すべきである。また、救命救急センターの設置については (現在の県内4か所以外には、国庫補助対象外であるが) 県民の命を守るため、(中央病院も含めて) 県単独でも対応すべきである。

# スポーツ少年たちを 応援します。



▲岩瀬東野球スポーツ少年団には、日本生命財団からテント、トススクリーンなどが寄贈された。常井県議（中央）を練習試合に招いて披露された。（12年10月）



▲友部リトルリーグには、日本生命財団から移動式ホームランネットが寄贈された。今シーズンの練習開始日に常井県議を招いて披露された。（13年2月）



▲常井県議は中央聴覚障害者協会のXマスの集いに、手話をする長女とともに出席。手話での歌、劇を見て、楽しいひとときを過ごした。（12年12月）



▲岩瀬町小塩区では、県からコミュニティ助成金250万円の交付を受け、地区集会所の進入路整備、水洗トイレの設置事業を実施した。常井県議は、祝賀会で地域の皆さんに囲まれ歓談した。（12年11月）



▲通行不能道とされている県道南指原岩間停車場線を何とか開通させるのが常井県議の悲願である。岩間町長沢区へ伊藤水戸土木事務所長（手前下）を案内し、柴山岩間町長らと雪の残る山道を現地調査。後日、13年度に用地買収に入るとの報告を受けた。（13年2月）



▲友部町松山団地自治会の役員の方から、小学校児童の大田町内の通学路の安全対策の要望。雨の日の現地調査で危険性がよく分かった。その後、皆さんと水戸土木事務所長へ要望した結果、早速できる限りの対策を講じることになった。（12年11月）

## 橋本知事の3選出馬を支持します

橋本知事は、今定例会で、「21世紀を茨城の時代となるよう全力を傾注したい」と9月の知事選に3選出馬を



表明しました。常井県議は、推薦依頼に対し、大変な財政難の中で県政を真剣に運営してきた知事の姿勢と実績を評価し、今後の活躍を期待して強く推薦しました。



▲岩間町防犯連絡員協議会女性部の皆さんの県庁見学の時、素敵な笑顔に囲まれて記念写真撮影。（12年11月）

## 燃える郷土愛。全力投球!!

皆様の常日頃のご支援に心から感謝申し上げます。  
お蔭さまで、元気で議員活動の日々を送っております。  
さて、21世紀のスタートの予算も可決され、新しい県政が期待されますが、窮迫する財政難の中で、橋本県政もかじ取りが大変です。こういう時にこそ、議会を通して県民のニーズをきちんと握し、「施策の選択」を行い、何よりもスピーディーに実行することが大事です。  
そして、常に「生活者としての県民の目線」で「納税者の視点」で県政を運営していかなければなりません。皆様の納めた血税がどう使われているのか、行政の施策決定の過程をできるだけ県民にオープンにして、「説明責任」を

果たしていく必要があります。  
私は、そういう県政のあり方をめざして、文教治安委員会、予算特別委員会での質疑を通して、議会人としての責務を十分に全うしていきたいと考えております。  
私、常井洋治は、皆様の御用聞きに徹してまいります。今後とも、引き続き絶大なるご支援をお願いいたします。



茨城県議会議員 常井洋治